

吟野集

雑中

特別

イ 4

3163

31(11)

9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

述懷

聊述懷

寄天象述懷

寄日述懷

逐日述懷

月前述懷

對月述懷

寄月述懷

寄星述懷

風前述懷

寄風述懷

嵐前述懷

寄嵐述懷

雨中述懷

寄雨述懷

寄雲述懷

寄霧述懷

寄煙述懷

寄露述懷

寄雪述懷

寄霜述懷

夕述懷

薄暮述懷

曉述懷

寄曉述懷

夜述懷

春述懷

夏述懷

秋述懷

冬述懷

歲暮述懷

寄木述懷

寄埋木述懷

寄朽木述懷

寄花述懷

寄松述懷

寄竹述懷

寄篠述懷

寄草述懷

寄鳥述懷

寄虫述懷

寄山述懷

寄森述懷

浮田森述懷

寄國述懷

寄遠國述懷

寄關述懷

寄橋述懷

寄道述懷

寄水述懷

水田述懷

寄河述懷

寄海述懷

寄浦述懷

寄濱述懷

寄瀨述懷	寄龍述懷	社頭述懷	寄神述懷	寄神祇述懷
故鄉述懷	山家述懷	寄里述懷	閑居述懷	寄市述懷
獨述懷	老人述懷	老後述懷	寄老述懷	寄老人述懷
寢覺述懷	寄身述懷	寄情述懷	寄心述懷	述懷言盡
述懷非一	述懷淚	思行未述懷	寄玉述懷	寄鏡述懷
寄画述懷	寄弓述懷	寄鐘述懷	寄衣述懷	寄絲述懷
寄灯述懷	寄酒述懷	寄塵述懷	寄貝述懷	寄田述懷
寄稻述懷	寄菓述懷	耻運述懷	寄門述懷	寄世述懷
寄歌述懷	寄書述懷	寄舟述懷	船中述懷	寄藏畫述懷
寄筏述懷	旅中述懷	行旅述懷	名所述懷	夢中述懷
寄夢述懷	羅述懷	聞法述懷	就汰述懷	懷曰

月催懷旧	對月懷旧	月前懷旧	寄風懷旧	風前懷旧
寄嵐懷旧	寄雲懷旧	夜懷旧	寄雨懷旧	雨中懷旧
寄露懷旧	春懷旧	夏懷旧	秋懷旧	冬懷旧
寄花懷旧	寄松懷旧	寄杉懷旧	寄橘懷旧	寄忍草懷旧
寄雀懷旧	寄珠懷旧	對泉懷旧	寄水懷旧	池邊懷旧
寄川懷旧	寄淹懷旧	寄江懷旧	寄橋懷旧	寄山懷旧
寄野懷旧	旅懷旧	懷旧時々	懷旧非一	老後懷旧
獨懷旧	寄世懷旧	懷旧催淚	懷旧淚	寢覺懷旧
寄夢懷旧	夢中懷旧	寄舟懷旧	寄鏡懷旧	山寺懷旧
寄里懷旧	名所懷旧	故鄉懷旧	寄物 袂祇	梯

煙 物語 書 昔 往昔

披書逢昔	未忘昔意	遇友恋友	思往事	老後思往事
往事催淚	忍昔	對月思昔	月前思往事	夢
憂喜同夢	夢談故人	世路如夢	往來如夢	往來皆夢
曉寢覺	草	忘草	忍草	月草
麥門冬	日落草	庭苔	窟苔	山路苔
苔爲石衣	萍	芦	江芦	濱邊芦
藻	竹	窓前竹	竹風似雨	竹風
竹不改色	竹久綠	竹週年友	松竹	篠
園篠	路篠	木	松	庭松
山松	名所松	高砂松	三影松	故鄉松
社頭松	松風	松風似雨	松風調琴	松濤

松煙	山下松煙	松臨池	池上松久	松枝映水
海邊松	磯松	浦松	島松	岸松
江松老	松老澗底	松花十迴	松不改色	松爲友
松君閑友	松作千年友	松契千年	松契多年	松契週年
松經年	對松爭齡	古松	松薪	松枯
柳	山柳	嶺柳	杉	柏
ほろがし	楮	椿	樺	檜
栽桂	橘	まろの木	水樹又佳趣	浮木
鳥	河邊鳥	海路鳥	寄鳥離	放鳥
鶴	朝鶴	夜雀	鶴聲近	雲居雀
池上雀	江上雀	海邊鶴	海邊見鶴	海邊冬雀

浦雀	河上鶴	鶴宿松樹	鷺	虎	猿	鯛	拾貝	宴	琴調
浦雀鳴月	鶴立洲	鶴契退年	鷺	牛	鮑	鮎	龜	盃	和琴
湖邊雀	鶴鳴阜	烏	曉鷺	馬	蛭	鮎	御調 ミツキ 日調 ヒツキ	刀	鞞
澤雀	島雀	都鳥	曉更遠鷺	羊	蜘蛛	鮎	藥	弓箭	管絃
澤邊雀	葦間鶴	鷗	鳩	鷺	熊	貝	酒	琴	笛

鼓	薄暮鐘	勸學文	法服	鏡	袋	靴	閑中灯	船	河舟	松川筏
鐘	寤鐘 _ニ	文書	袈裟	鞠	棊	鍋	画	船路	古渡舟	河筏
曉鐘	遠鐘 _幽	木	羽衣	櫛	枕	玉	車	海路舟	舟過荻間	釣
曉聞鐘	幣	文詞	裳	箱	杖	金	疊	江上舟	行舟夜已深	釣魚
晚鐘	書	詞	綿	夕 _平	網	燈	果	浦舟	筏	釣舟

雜中目四終

小所 後

冷泉院

大伴卿

離中九

寄山述懷

同 年をぬるを井のねとて著つこのいふ為得よすまんと
 同 逢坂のゆふとく高し我ども越り人の泣くやうな年
 同 ちがひの多く花葉の分ちまた秋はきつう人といひに
 同 著つこのいふちあつるすぢりた終ふとね方とを為さ
 同 ちがひのいとうとるる分れねとて著つたねとすま
 代 ちがひは葉繁ふけといひといふねとて葉分也と
 同 ひく人トもてやとねる葉まゆのいづつ物を我みと著
 古 著る人えねくはうの葉のう小葉まであんととて
 同 世あふねむとと結まされに著つたのいづつとてあつて
 同 三葉のねのあつた小葉とて世のうすい村のうたをせむ
 同 是むまのうたをまわくこれあんとて世中へあつてあ
 同 いづれんちあの中かすまわとてあつたのうたをせむ
 同 数あつたあつたあつて著つたのうたをせむとてあ
 同

身森述懷

浮田森述懷
 寄國述懷
 寄遠國述懷
 寄閩述懷
 寄橋述懷
 日小きて心むさうなる大なるもの浮田の暮る家分ある人
 橋にありて心むさうなる大なるもの浮田の暮る家分ある人
 子屋ふとあつみ一人我とくみよまゐりぬ歎とげせど
 疏さうぬきふとぬれ袖を濡えどもさうかゝるをばは雲雪
 代律代よりある國小つゝ人なる賢いそえぬ雲はさ川
 古難波あるなまうれ橋と云ふことい我分を何小きと云
 人海すゑたふあるを何と云ふれ橋と云ふれぬ人
 倉
 明
 寺
 とう
 前橋政
 い世
 七条后

寄濱述懷

寄瀨述懷

寄滝述懷

社頭述懷

代 仲たをふくもの浦小丘のあふくくや秋りてまん
 宗子
 ときた國の吹た浪たを物とあつみ果ねと何あぐく浪
 不始他人
 いふせんいせの浪萩とてふる後たあふくちあぐ
 倭重
 けせふくあつむときけだ後川まねくくくくねる袖れ
 惟方
 形 葉をふくちあぐの浪のつとくたあふくくくくく
 新基
 代 庭多川あふの浪小吹風のつとくたあふくくくく
 建保御製
 後 滝たせのうづまきとくくくくくくくくくくく
 多人
 千 大井川とあふの浪小吹風のつとくたあふくくくく
 室仁
 形 我せとくくくくくくくくくくくくくくくくく
 り原
 千 さいとくくくくくくくくくくくくくくくくく
 式内
 同 我はいのくくくくくくくくくくくくくくくくく
 室保
 同 ときおかどあつむくくくくくくくくくくくく
 室重
 形 ときとくくくくくくくくくくくくくくくくく
 周防内侍
 同 皆人のときも果ねる世中ふくくくくくくくくくく
 女卿

寄神祇述懷

寄神祇述懷

故郷述懷

山家述懷

詞 くるてのこよふを明は月をくくくくくくくくく
 多人
 予 我のあひむ日をたねえ要ふの葉の片までくくくく
 義典
 新 我ねむ七の結乃くくくくくくくくくくくくく
 同 ちあぐて日あふの結えくくくくくくくくくくく
 同 かくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 代 みる
 同 うきこのたけしお強ずハ神中へ怨たにす身とくく
 増基
 同 息とハ神中あふくくくくくくくくくくくくく
 仁後
 同 信者たすくくくくくくくくくくくくくくくく
 基後
 同 志き波小あのみせくくくくくくくくくくくく
 後成
 古 人くくくくくくくくくくくくくくくくくく
 二條
 代 うくくくくくくくくくくくくくくくくく
 後人
 同 歎けくくくくくくくくくくくくくくくくく
 多宮女
 後 けあふくくくくくくくくくくくくくくくく
 康秀
 同 せは中いといふくくくくくくくくくくくく
 多人

寄心述懷

和
 同 ことたまふ歳よろしく人世る小うき分むところの座あらに
 代 うれしきみおどろけ袖あまうりてえあまうりて分とん
 同 おどろけとあまうりて分とえ多とうへむ計らうねむ
 同 ぞとあまうりてえをたれどいとく計うらるる分と
 同 たちこの親おあゝあゝこの愛い分分小限多くれ
 同 なが病とあふ命のおわづええぬべや分とぞみとわ
 同 ああくらぬ余いつく小ううれて憂分は果て人又みえぬ
 同 うきこしい花まだくとあふ小限つぎ好ま敷命も
 同 我病とあひあさばと文小考てうきびくくよ分の
 同 さう花とかるえぬと下軽くと憂分とくぬ程小で強
 古 憂てふそ枯うそ世中とあひわれぬがうかりそ是
 用 世れよりめええぬあざといん小い心人そわづり也此
 代 数あるとあふ心をたかす流好する小う分とこれほ
 詞 おの身はわづらふ如家ぬせむ物とおもひ足なき
 舞臺△
 獲強△
 定家△
 和康式△
 良守△
 篁△
 龍吟△
 雅楽△
 行定△
 忠正△
 小町△
 良名△
 佐々木△
 以上△

述懷言盡

述懷非一

[illegible]

述懐疾

詞 分れさへさしちとてさうたけの束のそとに思ふ
新 かくけうれを思ひてあぐろをさう端の袖を袖に
代 黄ばののきさうさうさうさうさうさうさうさう
同 人トさう人ト恨めしあぐろをさうさうさうさう
同 いづれさうさうさうさうさうさうさうさうさう
同 ちうの袖の袖にすさうさうさうさうさうさう
同 とさうさうさうさうさうさうさうさうさう
古 中の中さうさうさうさうさうさうさうさう
同 中の中さうさうさうさうさうさうさうさう
拾 年と小袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖
詞 後川さうさうさうさうさうさうさうさうさう
同 若く後着さうさうさうさうさうさうさうさう
新 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
同 何のさうさうさうさうさうさうさうさうさう

思行未述懐

勅 分れさへさしちとてさうたけの束のそとに思ふ
同 年と小袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖
同 後川さうさうさうさうさうさうさうさうさう
同 若く後着さうさうさうさうさうさうさうさう
新 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
同 何のさうさうさうさうさうさうさうさうさう
同 分れさへさしちとてさうたけの束のそとに思ふ
同 年と小袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖袖
同 後川さうさうさうさうさうさうさうさうさう
同 若く後着さうさうさうさうさうさうさうさう
新 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
同 何のさうさうさうさうさうさうさうさうさう

鷗

鷄

鷄告曉
曉鷄

曉更遠鷄

鳩

鷲

代 ぎざとみぐうかろふん知るさあをむうの人ととれ 後連太

六 ずかぬむむいさふあふまふふふふふふふふふふふ 費々

同 白鳥のうさふふふふふふふふふふふふふふふふ みるね

同 白鳥のうさふふふふふふふふふふふふふふふふ 同

六 白鳥のうさふふふふふふふふふふふふふふふふ 同

代 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 若橋

後 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 井手の内

新 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 式子内

代 つふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 芥実

新 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 新行

六 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 後人

万 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

さみふふふふふふふふふふふふふふふふ せとう

鷹

鷄

鷲

虎

牛

馬

同 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

同 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

六 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

同 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

同 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

同 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

同 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

同 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

同 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

後 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

六 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

万 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

後 ねむむのうさふふふふふふふふふふふふふふふ 同

蛭

惠慶 益信母 信雅母 祇重 定家 壽祇 赤後 讀人 必好 同 後落 志貴學子 坂上即女 惠慶△

魚 鯛 鮪 鮓 鮔

通昭
人
同
人
高安王
憶良
同
同
人
同
同
人

弓
箭

琴

雜中三十七

表

法服

[illegible]

羽衣

新 けつゆのあゝ夕べもくらの若れ夜へゆりさうさず
 千 おちろねくうき世の民おちろく家へつね又雲渡れ
 同 ちんてふのうきやきうりくまに物と法れ夜と
 同 おちろねくうき世の民おちろく家へつね又雲渡れ
 初 逆祭の玉とあんとおちろく家へつね又雲渡れ
 後 永きよきねね眠ふうき世の民おちろく家へつね又雲渡れ
 後 いわいり整るくちれおちろく家へつね又雲渡れ
 六 是ふとくちれおちろく家へつね又雲渡れ
 後 限あくるくちれおちろく家へつね又雲渡れ
 万 白ねいのつーのくちれおちろく家へつね又雲渡れ
 持 子と母とくちれおちろく家へつね又雲渡れ
 同 子と母とくちれおちろく家へつね又雲渡れ
 金 子と母とくちれおちろく家へつね又雲渡れ
 六 子と母とくちれおちろく家へつね又雲渡れ

鞞 箒 櫛 箱 之 袋 纂 枕

[illegible]

漢舟連浪
遙望漢舟

暮漢舟

眺望

夕眺望

朝眺望

海上遠望

海上眺望

海邊眺望

浦眺望

船中遠望

海路眺望

雲海漫二

河眺望

湖上眺望

野徑眺望

遠山眺望

峯眺望

月前眺望

続 浪まよるる舟さふふの島傳ひり 雲のほり舟 阿母
代 波るるありあふれまはる見格ふたを雲の小舟いさる也 形
続 さ波やいふのらむさうー波まふさゆる雲つら舟 生像
代 みろす小浦さかみえをみれどいふとむさるあまた舟 能因
時 候めよとむさうー波やいふ月満るあふれ舟のつるさ 具親
代 風波る浪あふれつた夕波ふさむさるのむさあまた舟 為家
系 あまを難波のあふれをさるをさるさるのむさあまた舟 長人
初 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 入る太
代 えろさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 最澄
初 何さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 宅家
代 浪さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 安
初 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 買果太
子 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 安
用 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 安

用 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 船
万 浪さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 人
金 むろろさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 補弘
初 浪さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 寂道
用 浪さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 孝
系 かかへさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 三朱
子 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 乾
代 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 乾
用 浪さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 依
万 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 依
代 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 業
初 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 業
時 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 業
代 さうさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる 業
久うの月影を難波さるさるさるさるさるさるさるさる 業



